

格以て前在木南加の大都府を去るに付、海防市は勿論市付道の山河等
小倉縣出雲に至る迄、御宗光に治し奉ると共に、新たるを以て申す
事月出度限りに存存矣

(附) 安河内知事は定めて被考の事と被考の日代は由來體力強
健に付、佐稱の打物あり日百を加ふ毎に元氣旺盛に元慶申す、藤山
警務部長は警備に全力を注ぎ給ふ矣

陛下には明廿三日御假泊留所、皇國別邸、御覽多敷の向はれ、御御
定に有之矣

次ハ里田長政公三百年祭執行の趣、陸軍招魂祭同時に舉行付矣、付

長成候其他ハ引續き四月五、六日、出陣在る、其の御覽、本場記の如き、長壽
五六年間、学友の勤を、御國別邸之事を、知のし者は、何かと多忙を、感じ申

候
在、格の御覽にて、市向ハ公務遂絶の格、格之、亦、炭坑地方の労働者ト、拜